

## 12. リハビリテーション科臨床研修プログラム

### 1. 臨床研修基本理念

種々の疾病や外傷、術後の障害はもちろん、今後の高齢社会は、脳卒中・痴保・心筋梗塞・慢性呼吸器疾患・変形性骨関節症等の加齢性不可逆性障害に大多数の人間が直面する。リハビリテーション医学は、今後医学、医療に必要不可欠な分野である。多くの若い医師が救命、延命のみならず、早期社会復帰を念頭においたアプローチ、Quality of life（生活の質の向上）を心掛けた医療を担うリーダーとなることを期待する。

### 2. 臨床研修計画

#### 1) リハビリテーション診断および治療学

リハビリテーション医学は最も多くの分野に関連する総合医学である。その診断、治療、リハビリ的評価、治療技術、多彩な合併症は、種々の診療技術や知識の教育を必要とする。下記の点は専門のスタッフと協力して十分に習得する。

- (1) 運動機能レベルおよび日常性動作（ADL）の評価
- (2) 運動障害のリハビリテーション技法、筋力鍛錬法、良肢位、拘縮予防
- (3) 知能障害、失語、失行、失認の評価とそのリハビリテーション
- (4) 作業療法技術と言語訓練法
- (5) 物理療法技術
- (6) 呼吸機能障害の治療、リハビリテーション技法、評価、中止基準
- (7) 障害者、家族の心理、経済、社会的インタビュー、カウンセリング
- (8) 義肢・装具の処方、家屋改造の指導
- (9) レントゲンフィルム、CTフィルム読影、透視など
- (10) 排尿障害の評価、治療法、神経ブロックなど

#### 2) 週間スケジュール

	午前	午後
月	外来リハビリテーション診療・脳外科回診	
火	外来診療	病棟カンファレンス・画像カンファレンス
水	外来リハビリテーション科診療	
木	外来リハビリテーション科診療	整形外科回診・病棟カンファレンス
金	外来リハビリテーション科診療	

- (1) 外来は指導医と協力して診療する。
- (2) 訓練室に毎日出かけ障害のポイント、ADL 訓練、理学・作業療法、言語訓練を習得する。
- (3) 透視・内視鏡検査等についても指導医とともに積極的に習得する。

### 3. 教育課程

#### 1) 期間割 (2カ月コース、または短期コース)

リハビリテーション科の研修は2年次の選択科として位置付けられているため、2カ月間の研修期間を予定している。また、将来、整形外科、脳外科、神経内科などを希望する研修医については、研修期間中に1週間程度のリハビリテーション科研修ができるよう短期研修についても考慮中である。

#### 2) 卒後研修の内容

中枢神経障害、心肺疾患、骨関節疾患、神経、筋疾患を中心に、その診断、治療、リハビリテーションは無論、予防や心理、社会的課題についても研修する。

(1)リハビリテーション医学の歴史と理念

(2)医学、医療と社会のかかわり—家族教育、家屋改造、訪問医療、公的扶助、職業訓練

(3)リハビリテーションチームの運営と相互協力

(4)脳卒中の予防・診断・治療と急性期のリハビリテーション

(5)中枢障害の神経生理、運動機能障害、ADL、神経機能の評価

(6)運動障害のリハビリテーション—理学療法、筋力増強、ROM訓練、ADL訓練

(7)失語症、失認、失行など高次脳機能障害のリハビリテーション—言語療法、作業療法

(8)障害者と家族の心理、インフォームドコンセント、ハンディキャップ (職業復帰、家屋改造、福祉)

(9)脳卒中合併症について—排尿障害、嚥下障害、褥創、視床痛、肩手症候群、拘縮

(10)骨関節疾患のリハビリテーション、脊髄損傷、切断者のリハビリテーション

(11)補装具、義足、義手の処方

(12)廃用症候群の予防と治療、筋力トレーニング

(13)慢性肺疾患、術前後の呼吸器リハビリテーション

(14)パーキンソン病、小脳失調症のリハビリテーション

(15)物理療法—温熱療法、けん引、低周波、水治療

#### 3) 到達目標

到達目標は他科希望の研修医とリハビリ専門医を目指す研修医とで異なる。基本的な理念、リハ適応と処方、他職種とのコミュニケーション、社会資源の活用など、リハビリテーション的なものの見方を習得できることとする。

#### 4) 指導体制

研修医1名に対し、1名の指導医がつく。指導医の下で、研修医は患者を受け持ち、診療ならびに訓練指導を行う。研修医は患者の疾病についてだけでなく、機能障害や能力障害、社会的不利、心理面の評価ができるように指導される。

#### 4. 専門医、認定医制度と卒後研修

日本リハビリテーション医学会では、専門医と認定臨床医の2つの資格を認定している。当院は研修施設認定を受けており、2名の専門医が専任医師として、診療、指導を行う。

必要条件	専門医	認定臨床医
医師免許取得後	5年以上	5年以上
学会歴	3年以上	3年以上
研修期間	3年以上	1年以上
研修施設	リハ専門施設、リハ医学指導医（認定医、専門医）常勤	
研修報告	30例の症例報告 （症例一覧100例）	抄録10例 （症例50例） 学会主演抄録またはリハ医学
試験	学会発表2回：論文2編以上 筆記試験及び口頭諮問（年1回）	筆頭論文1編 筆記試験（年1回）